

Ⅷ. 研修の安全管理

1. 研修医が一人で行っても（オーダー入力含む。）よいと思われる検査

（但し、少なくとも最初の一度は指導医とともに行う。）

- 1) 一般尿検査
- 2) 便検査：潜血、虫卵
- 3) 血算・白血球分画
- 4) 血液型判定・交差適合試験（オーダー入力のみ）
- 5) 心電図（12誘導）
- 6) 動脈血ガス分析
- 7) 血液生化学的検査・簡易検査（血糖、電解質、尿素窒素など）
- 8) 血液免疫血清学的検査（免疫細胞検査、アレルギー検査を含む）
- 9) 細菌学的検査・薬剤感受性検査 ・検体の採取（痰、尿、血液など）
・簡単な細菌学的検査（グラム染色など）
- 10) 肺機能検査・スパイロメトリー
- 11) 細胞診・病理組織検査
- 12) 超音波検査
- 13) 単純X線検査
- 14) 造影X線検査
- 15) X線CT検査
- 16) MRI検査
- 17) 核医学検査
- 18) 神経生理学的検査（脳波・筋電図など）

2. 研修医が一人で行っても（オーダー入力含む。）よいと思われる手技

（但し、少なくとも最初の一度は指導医とともに行う。）

- 1) 気道確保
- 2) 人工呼吸（バッグマスクによる徒手換気を含む。）
- 3) 心マッサージ
- 4) 圧迫止血法
- 5) 包帯法
- 6) 注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保）
- 7) 採血法（静脈血、動脈血）
- 8) 導尿法
- 9) ドレーン・チューブ類の管理
- 10) 胃管の挿入と管理
- 11) 局所麻酔法
- 12) 創部消毒とガーゼ交換
- 13) 簡単な切開・排膿
- 14) 皮膚縫合法
- 15) 軽度の外傷・熱傷の処置
- 16) 細動

※ 上記以外の検査・処置は指導医とともに行う。

3. 必ず指導医に確認を受けること

- 1) 診療録の作成
- 2) 処方箋・指示書の作成
- 3) 診断書の作成
- 4) 死亡診断書の作成
- 5) CPC レポートの作成、症例呈示
- 6) 紹介状、返信の作成

4. 研修医の診療行為および研修医への指示

A. 旭川医科大学卒業後臨床研修での基本原則

- (1) 研修医は、全ての医療行為について指導医、上級医の同意が必要である。
研修医が出す指示、実際の医療行為は指導医の確認を得た上で行われていると理解される。
- (2) 前項の規定を違反する研修医には、監督者により処罰される場合がある。
- (3) 指導医は許可を与えたことを記録に残すため、研修医の指示が出された後、カルテや指示書に確認のサインを行う。(カウンターサイン)。
- (4) 研修医による指示が出された後、指導医の確認のサインが行われるまでの間に時間的ずれが生じうるが、(1)の規定に基づき、研修医の医療行為に関する指示は全て指導医の同意があったものとみなして他のスタッフは作業を進める。麻薬、抗癌剤および病院として規定(循環器薬・インスリンなど)した医療行為については、投与開始前に指導医の確認のサインがなされている必要があり、指導医のサインがない場合には患者に投与できない。
- (5) 研修医および指導医に変更があった時点でカルテにその旨を記載する。
- (6) 急変時の研修医指示の取り扱い
 - ・患者の状態が急変し、指導医の指示を受ける時間的余裕がない場合は、救命的な医療行為が優先される。

B. 指導医のサインがないと行えない診療行為（指導医に対して口頭確認でも可）

（1）初回投与時に指導医サインが必要なもの

- a. 抗癌剤
- b. 麻薬
- c. 循環器薬（昇圧剤・強心剤・抗不整脈剤）
 - ジゴシン注、イノバン注、カタボン・low 注、
 - ドブポン注、ドブトレックス注、プロタノールL、
 - ネオシネジン注、ノルアドレナリン注、ボスミン注、
 - アドレナリン注シリンジ、ミルリーラ注、
 - インデラル注、アミサリン注、リスモダンP、
 - アスペノン注、メキシチール注、キシロカイン注、オリベス点滴用
 - オノアクト注、サンリズム注、ワソラン注、シンビット注、
 - アンカロン注、
 - ペルジピン注、ニトプロ注、シグマート注、ヘルベッサ注、
 - ニトロール注、ミリスロール注、ハンプ注 など
- d. 鎮痛剤
 - ソセゴン、レペタン など
- e. 抗精神薬
 - ・バルビツール酸系製剤：イソミタール末、フェノバル、
 - イソゾール注、フェノバル注、
 - ルピアール座薬、ラボナール注 など
 - ・三環系抗うつ剤：トリプタノール、トフラニール、
 - アナフラニール錠、アナフラニール注、
 - アモキサシカプセル、アンプリット錠、
 - ノリトレン錠 など
 - ・リチウム製剤：リーマス錠 など

※ただし、抗精神薬注射薬については、毎回指導医サインが必要

（2）新規に開始する場合と種類を変更する時には指導医サインが必要

- ・インスリン、メシル酸ガベキサート（FOY）、バンコマイシン、
- 抗凝固薬 など

（3）初期設定時に指導医サインが必要

- ・レスピレーター設定 など

ここにあげた薬剤及び診療行為に関しては、医療安全管理部で提示しているハイリスク薬一覧等を参照し、各診療科の指導医の指示に従うこと。なお、上記については状況に応じて変更することがある。